

公益
社団法人

長井教育会

文教の杜ながいの風景から



提供：文教の杜ながい 後藤拓朗さん

内容

- 1 文教の杜ながいの風景から
- 2 理事長あいさつ
- 3 感謝を込めて～感謝状贈呈～、総会開催
- 4 令和3年度経常収支予算並びに事業計画
- 5 長井教育会によせて～私の学び～ ふるさと長井会会長 桑島寛之
- 6 「学びに火をつける」 長井高等学校校長 青柳敦子
- 7 地区委員の声
- 8 奨学生交流の広場
- 9 お知らせ
- 10 入会のお願い



奨学支援の在り方について

理事長 蒲生直樹

私がかつて勤務した米沢興譲館高校に自願奨学財団という公益財団法人があります。日本民法学の基礎を築いた功績により文化勲章を受章なさった故我妻栄先生（我妻先生は日本労働法を体系づけた西根出身の法学者で長井市名誉市民でもある孫田秀春先生の義弟にもあたります）が、母校興譲館高校に学ぶ生徒たちに奨学金を給付することを目的として、昭和四十一年に私費六百万円を投じて設立した財団です。自願財団はその後幾度にも及ぶ我妻先生のご寄付により資産規模を拡大し、以来、その運用益を奨学金に当てることとし、現在は同窓生の支援も受けつつ、凡そ各学年四名の生徒を月一万円を支給しているようであり、その自願財団の運営の実際についてはともかくとして、さしあたり今ここで会員の皆様にご紹介したいのは、奨学金を受ける生徒の気持ちを感じ、財団事務局を担当する学校当局に対して幾度となく語られた我妻先生の次のような言葉です。

「折角の奨学金が当該生徒の重い負担になってはいけません。奨学金を支給されたことに感謝するその人の気持ちは尊いが、だからと出資者に足を向けて寝てはならぬ式の感謝強要は絶対に避けてもらいたい。」また、奨学生への訓話をお願いした時には、「財団はすでに学校のものであって、絶対に我妻の私物ではない。我妻は興譲館の一卒業生に過ぎない。特別に奨学生に訓話する謂われはない」として、決して承知なさらなかったそうであり、先生にあつたのは、何よりも学ぼうとする生徒たちへの信頼でありました。この話を紹介しようと思ったのは、今回の定時総会にあつて寄せられたご意見の中に、「奨学金貸与生徒には県内就職を原則としてはどうか」というようなご意見があり、長井市民の浄財を原資とする奨学金だからと、似たようなご意見をお持ちの方も少なからずおられるだろうと思つたからです。

私どもの奨学金貸与事業の目指すところは、あくまでも学ぶ意欲を持つ若者を応援するところにあります。主役はあくまでも若者一人ひとりであり、私どもは応援団、いわば黒子であります。若者がそれぞれの未来において自分の思いを実現できる場がこの地長井であれば、それは私どもにとつても嬉しいことですが、でもそれは誰に言われたからでもなく、その若者が自らの意志と決断で選び取つたものであって欲しいと思つています。生き方は自らが選び取るものであり、その実現の場がどこであれ、選び取つた人生をその人らしくしっかり生きてくれればそれでいいのですし、応援団である私どもは未来の社会の主役たる若者を信じて見守っていればいいのだと思つています。奨学支援の原点を問う我妻先生の言葉を思い起こしながらそんな風に思つたのであります。

永年のご尽力に 感謝状を贈呈

この度、昨年度まで本会運営にご尽力頂いた前理事の方々と、地区委員としてご協力いただいた八名の皆様に感謝状を贈呈致しました。今年、新型コロナウイルス対策の関係から、総会での贈呈ではなく、ご自宅にお届け致しました。永年のお勤めに、心より感謝申し上げます。

○退任役員

- 安城道子様（理事二十年）
- 平忠一様（理事一三年）
- 大山勲様（理事一三年）

○十五年勤続地区委員

- 小関勝助様（九野本下一）
- 風間廣子様（本町南）
- 松田詔二様（横町一）

○十年勤続地区委員

- 横山金満様（時庭西）
- 小島一夫様（五十川上二）
- 鈴木力夫様（四ッ谷南）
- 高橋勝太郎様（ままの上南）
- 宇山定男様（十日町北）

令和3年度 第44回定時総会開催 佐藤雄一様 和子様を名誉会員に推薦

6月12日（土）にタスパークホテルで第44回定時総会が開催されました。

出席者19名、書面表決879名と、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、少人数の出席者による総会になりました。

桑島一郎副理事長が議長を務め、議事が進められました。審議の結果、令和2年度決算、評議員の選任に関して承認されました。また、本年度は、多額のご寄附をいただいた佐藤雄一様と佐藤和子様を名誉会員に推薦する議案も提出され、全会一致で承認されました。

さらに、令和3年度事業計画、予算等の報告についても確認されました。（次頁参照）



令和3年度 経常収支予算並びに事業計画

1 令和3年度経常収支予算の概要

(1) 経常収益	3,758,000円
内訳	基本財産運用益（投資有価証券分配金・定期預金利息） 113,000円
	会費収入（通常会員、特別会員、賛助会員） 3,645,000円
(2) 経常費用	3,758,000円
① 公益目的事業	
奨学金貸与事業	2,183,450円
教育文化事業	604,450円
② 法人管理費	970,100円

第44回 長井教育会 定時総会



新規貸与者数

佐藤様ご夫妻の多額のご寄附により、例年より多くの新規貸与者数になっています。

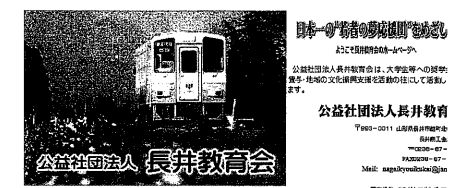
2 事業計画の概要

- (1) 奨学金貸与事業
- ① 3年度の貸与について
 - ア 新規貸与者 10名
 - イ 貸与者総数 17名
 - ウ 貸与総額 9,840,000円
 - ② 3年度の返還について
 - ア 返還者 45名
 - イ 返還予定額 14,460,000円
 - ③ 奨学生同士の会報を通じた交流
 - ④ 奨学生OB等からの提言
 - ⑤ 令和3年度奨学生の選考
 - ⑥ 「山形県若者定着奨学金返還支援事業」の積極的な活用の勧め

(2) 教育文化事業

- ① 記念講演会の開催（事情により本年度は中止）
- ② 地区コミュニティーセンター教育文化事業への助成
豊田・西根・伊佐沢各コミュニティーセンター
- ③ 市内中学校への研究費助成
- ④ 市内中・高生徒への長井教育会賞の授与
- ⑤ 「長井ビジネスチャレンジコンテスト」支援（新規）

(3) 会員拡大活動



長井教育会
 公益社団法人 長井教育会
 〒981-2011 山形県長井市
 長井駅前
 TEL: 023-622-1111
 FAX: 023-622-1112
 E-MAIL: naigai@nagai-edu.jp

ホームページでも情報を発信しています。

〔特別寄稿Ⅰ〕



長井教育会に寄せて —私の学び—

ふるさと長井会 会長 桑島寛之
(昭和四十六年三月長井高校卒)

『天声人語』
 私が中学生（長井中学校）の時、新任の国語教師が赴任して来られました。ある日職員室に呼ばれて「何事か？」と不安に思いながら入っていくと「朝日新聞の『天声人語』を写してみないか」との提案でした。その時どう応えたのかは覚えていませんが、その日以来『天声人語』を写す日々が始まりました。最初は単純な書写、次は段落ごとの関係整理、さらには論点の整理……。大学ノートを二冊用意して一週間書いたものを先生に渡し、もう一冊に翌週分をまた書き写す、先生の赤ペン修正・指導の入った一冊目と交換で二冊目を提出する。こんな毎日が卒業まで続きました。この営みは高校二年生まで続けました。

当時はクラブ活動で体操部に所属していた、夜七時過ぎまで練習、帰宅して夕食後に睡眠と闘いながらせせせと書写＆まとめに精を出していたことを、今、懐かしく思い出します。

この熱心な国語教師との出会いが『天声人語』との出会いは、その後の私のバックボーンを形作ってくれました。

私にとつての『天声人語』効果は大きいものがあり、文章の読み方や議論の組み立て方、

まとめ方はもとより、社会や世界の見方、一般常識感覚、また山野草木への視線、他者への細やかな心配りなど、その後の人生にとつての基本的な地盤を形成してくれました。（わが家は朝日でしたが、読売『編集手帳』毎日『余録』でも効果は同様と思います。）

ある日の記事にドストエフスキイの『罪と罰』のことが載っており、先生のすすめもあって早速文庫本で読み異様な衝撃を受けました。その衝撃が何ものであるのか分からなままに、しばらくするとあの独特な世界に魅きこまれていく。高校時代は学校の図書館から借りて主要作品を読み継ぎ、大学入学時に最初にもらった奨学金で神保町の古書店で『ドストエフスキイ全集』を買い、以来十数回の引越時にも持ち歩き現在に至っています。他の古典とあわせ、五十年前に戻って読み直し、人間存在の深みに思いを馳せてみようと思えます。

また、ある日『図書』（岩波書店の広報誌）に触れた文章があり、これまた先生のコメントに触発されて10冊/1冊（1000円/年）で定期購読し現在に至っています（今は1000円/1冊、10000円/年）。『図書』は私の世界を思い切り拡げてくれました。

様々な芸術・文芸・哲学・歴史・宗教・政治・経済・宇宙・生命科学など、田舎の中学生の眼前に古今東西の多種多様な世界に関して大きな刺激を与えてくれました。今なおその刺激は継続し、好奇心・興味の幅は拡がりつつあり、人生の白秋期（終晩期）に向かいながら「もう少し関心領域を絞ろうか」と思っています。

この人生の大恩ある国語教師こそが「長井教育会」現副理事長の菊地とく先生で、実兄の一郎兄とく先生が名前を並べる組織からの寄稿要請は断れるはずもなく駄文執筆した次第です。

『五十年』

一九七一年（昭和四十八年）三月に長井高校を卒業してからちょうど五十年が経ちました。この半世紀、東京での学生生活、就職、そして神奈川、福岡、大阪など域内転居を含めて十四回の引越を重ねました。それぞれの地域で、また多くの友人知人からも沢山のことを教わり学ばせていただきました。それは今もなお進行形です。今は「グリーン（悲嘆）ケア」という新たな分野を学び、その活動をメインにしています。また昨年「ふるさと長井会」の会長に就任いたしました。コロナ禍での活動は思うようにならない部分も数多くありますが、今こそ、過去を振り返り、さらに森羅万象に好奇心を持ち、これからの人生を考える絶好の機会にしたいと思っています。

【特別寄稿Ⅱ】



「学びに火をつける」

山形県立長井高等学校 校長 青柳敦子

今年の四月に、県立長井高等学校第三十一代校長として着任いたしました青柳敦子と申します。

日頃より、長井教育会の皆様には多大なご支援を賜り、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

ご承知の通り、長井高校は、昨年百周年を迎えました。「万物我に備はる」の校風を受け継ぐとともに、次の百年に向けて、「Pride + One」の生徒会スローガンの下、高い志と挑戦の気概を胸に、生徒、教職員一丸となって教育活動に邁進しております。

学習指導要領が改訂になり、2020年から小学校を皮切りに、新しいカリキュラムが順次スタートしています。今回の学習指導要領では、学習内容（コンピテンツ）に加え、育成すべき資質・能力（コンピテンシー）が明示されました。すなわち、3つの柱として①生きて働く「知識・技能」の習得 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成 ③「学びに向かう力・人間性等」の涵養が、幼小中高を通して育成することが謳われています。これまで「教員が何を、どう教えるか」に重きが置かれて来ましたが、ここに来て「学習者がどう学び、何が

できるようになったか」に焦点が当たり始めました。いわゆる「学習者中心の教育」への転換を迫られていると言っても過言ではありません。

その背景には、人工知能（AI）の急速な発達や、グローバル化の進展、地球環境の急激な変化などにより、「予測困難な時代」が到来するとの見方があります。誰も答えを知らない「未知の状況」に人類が直面し、その時、どうしていくのかが問われることになりました。

今、新型コロナウイルスによるパンデミックにより、全世界が未曾有の困難に直面しています。東京2020オリンピック・パラリンピックは、一年延期になって、賛否両論ある中、何とか開催までこぎつけました。

まさに、「未知の状況」に、どう対応するか、答えがない中、課題にどう向き合い、仲間と協働しながら、最善解をどう導き出すか、そんな力が必要とされる時代です。教育界でも、「予測困難な時代」を、よりよく生きるたくましい人材の育成が求められています。

一つのヒントが、本県でも推進されている「探究型の学習」にあると考えます。「探究型の学習」では、児童・生徒が自ら

課題を見出し、仲間と共に調査・研究し、その成果をまとめ、何らかの形で発信する、そして見出した新たな課題に向かうという学びのスパイラルが求められます。

長井高校でも、平成三十年度に「探究コース」「一般コース」が創設され、「探究型の学習」を試行錯誤しながら進めています。長井駅周辺の活性化をテーマにして、市役所やコミュニティセンターの方々と何度も議論しながらプランを練っているグループ、ペットボトルを使って小水力発電ができないか実験しているグループ、子どもの貧困に課題意識を持ち、地域の子ども食堂の運営に寄与しようとしているグループなど、実生活に即した課題に必死に向き合っている姿は、とても輝いていると同時に、たくましく映ります。

そして、高校生に真剣にアドバイスしてくださる地域の方、大学の先生方との出会いが、その学びを支えると同時に、将来の生き方やキャリア形成に大きな影響を与えてくださっています。「ひとを育てる」という教育の営みに加え、「ひとは育つ」、その「育つ」環境、「場」をどう提供するか、そして「自ら学ぶ力」をどう育んでいくか、今、教育の現場で切に求められていると感じています。

小中高を通して、「本物との出会い」を大切にし、子どもたちが「育つ場」をいかに提供していくか、地域との連携を通し「学びに火をつけ」、郷土に誇りを持ち、社会や地球に貢献していく人材をいかに育成していくか、皆様のご協力をいただきながら、教育の可能性に挑戦してまいりたいと考えております。

地区委員の声

長井教育会の一員として

白鬼地区委員 高井耕次

最近の担当地区の会員動向ですが、高齢を理由に退会された方もいらっしゃれば、会員の声かけがきっかけで入会された方もいらっしゃいます。私は地区委員として現状に甘んじることなく、多くの方に加入を勧めていかなければと考えている昨今です。

さて、長井教育会の目的を市民の皆様理解していただく、または勧誘などに使える端的な表現はないものだろうか。「日本一の若者の夢応援団」をめざして」というスローガンを事務局は掲げていますが、あえて私なりに勧誘の際の声かけを考えてみました。

「長井教育会は、長井の若者たちの夢実現に向けた市民ぐるみの応援団で、全国的にも稀な奨学金制度を設けている。また青少年の健全育成にも一役買っている。年会費は二千元。若者の夢実現と一緒に応援しましょう。」

昭和五十二年に発足以来、連続と四十数年を経ていて歴史の重みを感じます。何と言っても「市民ぐるみの組織」というのが大きな特徴です。先人の「若者をサポートしたい」という熱き思いを知ることができます。この間、多くの若者たちは夢実現へ向けて元気にはばたいていったことでしょう。

そこでやはり、会員増が長井教育会の大きなパワーとなります。会員が多ければ奨学生の枠を増やすことができ、また一人当たりの奨学金を増やすことができます。そのためには繰り返しますが会員一人一人の声かけがとても大切になります。私は二年前、担当地区総会で、長井教育会の目的を紹介して会員募集の案内をさせていただきました。

会員増へつながる取り組みは組織あげて実施したいものです。企業の責務として社会貢献があるように、個人にもいろいろな形で社会貢献があると思われれます。未来を担う若者たちの夢実現へ向けた長井教育会の事業に大きなエールを送りたい。そしてその一翼を担っているんだという、地区委員としての自信と誇りを持てたいものです。

若者を応援するサポーターとして

成田上二地区委員 安部通子

私が前任の大先輩から、「地区役員」として声をかけて頂いたのは、平成二十八年でした。長井教育会についての理解もまだまだですし、まして、地区委員としての思いを記すことなど、とてもおこがましいのですが...

会報の配布や会費の徴収に皆さんの皆さんのお宅に伺いますが、ほとんどの方は先輩ですし、普段お話ししたことありません。何を話せばいいのか、躊躇しながら声をかけました。しかし、そんな心配をよそに、皆さんは快く協力的な態度で迎えていただき、「ごくろうさままだなあー」「会費まだいいんだっけか？」と優しく返してくださったのでホッと安心しました。きっと、この長井教育会の歴史や趣旨を理解し、賛同してくださっているからだと思えます。

長井の宝である若者を応援するサポーターとして、自分にできることはないでしょうか。会員拡大に向けてもっと自信を持って声をかけていくこと、特に子育て世代の方にも、自分の体験談や悩み事を聞いたりしながら、進路について将来についてみんなで応援していることを伝えたいと思います。高齢者も誰かの役に立っていることは生きがいになり、元気に長生きすることにつながると思っています。

我が家には幸せなことに、孫が四人おります。毎日とても賑やかでケンカをすることもありますが、言う事を聞かない事もありません。洗濯物や食器の数、玄関の靴の量もすさまじいです。親世代は仕事も忙しいですし、一人一人の要求に答えようと悪戦苦闘していますが、なかなか思うようにいかない事も多いようです。私がストレスを感じてしまうとみんなが不愉快なと思うので、無理をしないようにしています。孫たちと一緒に何でもやって楽しませてもらうとつき合っています。

近い将来に、我が家の孫たちも地域の方たちの応援をいただきながら、成長していくかもしれないと思うと楽しみです。そしていつか、この長井の地で自分の夢にむかって羽ばたいてほしいと願っています。

多くの人に支えられた四年間

鎌倉女子大学四年

わたしは小学校から高等学校までの十二年間、そして大学四年間と、学校に通わせていただきました。いつの時代を振り返っても、夢中になれることに出会い、困難を乗り越えた大切な仲間が...

大学では教育学部在籍し、その課程ではさまざまなことを学ばせていただきました。中でも「相手を認め受け入れること」「信頼関係を築こうと努力すること」を四年間の中で最も深く考...

日々成長

山形大学一年

私は、今年の春から大学生となり新たな生活をスタートさせました。新型コロナウィルスの影響で入学式はなく、オリエンテーションはあったものの、そこから一週間以上は様子を見るために...

奨学生交流の広場

お知らせ

◆新入会員のご紹介

八十四号発行以降に、多くの方々から新しく会員になっていただきました。ありがとうございます。

〈賛助会員〉

- 医療法人社団すくすく 様
株式会社末広 様
ふるさと長井会 様
医療法人社団希樹会 様

〈個人会員〉

- 田中美壽 様 (五十川上二) 特
勝見巨四雄 様 (市外) 特
中村政孝 様 (台町) 特
遠藤啓 様 (本町南) 通
山岸弘道 様 (時庭西) 通
小関幸博 様 (館町南) 通
佐藤靖博 様 (本町北) 特
松山靖博 様 (本町北) 特
内山涼子 様 (本町北) 特
前山裕之 様 (あら町) 特
阿達大介 様 (館町南) 特
池田祐之 様 (館町南) 通
大沼正一 様 (清水町二) 通
新野弘明 様 (館町南) 通
木村英一 様 (幸町) 通

- 佐藤剛 様 (四ツ谷南)
鈴木浩 様 (中道西)
山上高広 様 (五十川下)
和久井光一 様 (今泉上)
竹田陽子 様 (菅沢)
梅津武 様 (市外)
菅舞子 様 (マツキ二)
佐藤菜月 様 (マツキ二)
吉田亮 様 (マツキ二)
堀米三亮 様 (マツキ二)
今野美里 様 (マツキ二)
渡部均 様 (マツキ二)
梅津佳代子 様 (マツキ二)
菊地怜 様 (マツキ二)
佐藤孝 様 (マツキ二)
山木香 様 (マツキ二)
内谷和男 様 (市外)
櫻井政人 様 (市外)
村上義則 様 (市外)
安部浩 様 (市外)

地区委員が交代しました

旧委員の皆様のごこれまでのお力添えに感謝申し上げますとともに、新委員の皆様には宜しくお願ひ申し上げます。

- 中伊佐沢南 安部 健一 様から
森 平 祐二 様から
横町二 鈴木 則子 様へ

お悔やみ申し上げます

長年にわたり、本会に深いご理解と多大なるご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

- 故 田 弘 様 (勸進代北)
故 若 嘉 様 (清水町二)
故 遠 昭 一 様 (本町南)
故 山 道 雄 様 (五十川上二)
故 梅 喜 美 雄 様 (時庭西)
故 飯 上 源 幸 様 (中伊佐沢北)
故 井 忠 雄 様 (新町)
故 旭 上 忠 幸 様 (時庭西)
故 鈴 木 功 二 様 (館町南)
故 酒 井 幹 二 様 (屋城町)
故 志 釜 幹 二 様 (屋城町)
故 矢 久 保 敬 浩 様 (中道西)
故 大 城 敬 浩 様 (今泉下)
故 飯 澤 良 一 様 (館町北)
故 大道寺 七三郎 様 (五十川中)
故 沼澤 ひろ子 様 (清水町西)

表紙写真

「文教の杜ながい」は、長井市十日町にある長沼孝三彫塑館、丸大扇屋、小桜館を有する施設です。

第85号

発行日 令和3年9月17日
発行所 公益社団法人長井教育会
理事長 浦生直樹
故小松丘
長井市館町北6番27号
TEL 87-0633
FAX 87-0645

入会 の お 願 い

— 日本一の「若者の夢応援団」をめざして —

あなたも、長井の若者の夢実現のサポーターになってくださいませんか。
この会の「趣旨・事業」等に賛同し、長井教育会の会員になるだけで、有為な若者を、世に送り出す大きな力になります。

1 歴 史

県政 100 年を記念し、長井市の記念事業として創設されたもので、昭和 52 年 9 月 2 日長井市商工会館において、設立総会を開催したのが始まりです。その後平成 25 年に公益社団法人になりました。

2 趣 旨

長井市民の子弟のうち、学術優秀、品行方正、身体強健でありながら、経済的理由により修学が困難な大学生及び理事会が特に認めた者に対し奨学援護を行い、かつ、長井市民の教育文化の向上に資することを目的とする。(定款 第 3 条)

3 柱となる公益事業

(1) 奨学金貸与事業

毎年希望者を募り、選考会を経て奨学金貸与を行っています。毎月 4 万円または 5 万円を卒業まで貸与し、卒業後月賦または半年賦の均等方式により無利子で返済していただきます。

※ 奨学生の募集については、12 月の市報で募集要項を掲載しお知らせしています。

(2) 教育文化事業

- 文化講演会 ○長井教育会賞の授与 ○地区の教育文化活動への支援
- 市内 2 中学校への教育研究費助成

4 財 源

長井教育会は、収益事業を持ちません。市内外の会員（個人及び賛助企業等）の会費と折々に寄せてくださった方々の善意、そして奨学生による返還金でまかなわれている会です。このような会は、県内はもとより、全国的にもありません。

5 会員の種類と年会費、現会員数

- (1) ①通常会員 2,000 円 ②特別会員 5,000 円 ③賛助会員 20,000 円
(2) 令和 3 年度会員数 1,336 名（通常会員 1,192 名、特別会員 102 名、賛助会員 42）

6 入会の方法

- 事務局またはお住まいの地区委員にご連絡ください。入会申込書をお届けします。
- お礼状をお届けします。
お礼状には、所属する地区名と地区委員のお名前が書いてあります。

75 名の地区委員の方には、本会と会員や地域を結ぶ大切なサポーターとしてお力添えをいただいています。

- 毎年 10 月にお住まいの地区委員がお訪ねし、会費を頂戴いたします。
会員の皆様には、地区委員の皆様を通して年 2 回会報をお届けします。

詳細については「長井教育会」HP「<http://www.jan.ne.jp/~nagaikyokukai/>」を開くか、「長井教育会」で検索し、ご覧下さい。右の QR コードからもご覧いただけます。



長井教育会事務局： 毎週水・木・金曜日 9:00 ~ 17:00
住 所：〒 993-0011 長井市館町北 6 番 2 7 号 長井商工会議所内
電 話：0238 (87) 0633 F A X：0238 (87) 0645
担 当：牛澤 敏宏事務局長 MAIL：nagaikyokukai@jan.ne.jp